

卒業生を講師として初めて迎えた修養会、 とても素晴らしい修養会でした！！

2017年度全校修養会が10月26・27日に行われました。講師は遺愛出身の北川（山辺）聡子先生でした。遺愛の全校修養会は1953年に始まり、今年は65回目を迎えましたが、65回目にして初めて、遺愛の卒業生を迎えることができました。本当に嬉しいことです。遺愛修養会の講師は、クリスチャンで、「地の塩、世の光」として社会で素晴らしい働きをされている方を講師として呼びんでいます。

北川先生は、遺愛在学中に修養会で講師としていらした『止揚学園』の福井達雨先生の影響を強く受け、福祉の道を志すようになりました。1979年に遺愛を卒業し、北星学園大学文学部の社会福祉学科に進学しました。大学4年生の時に、仲間と4人で、自閉症児のための『麦の子学園』という施設を立ち上げました。入園児は7名での出発です。学生だけで施設を立ち上げるといのは本当にすごいことですし大変な事です。諍いや不信、財政難など幾多の困難をのりこえて、今では未就学児童から大人の支援施設まで13の事業を行い、400人の職員をかかえる社会福祉法人「麦の子会」となりました。北川先生は今は「麦の子会」の総合施設長として良き働きをしています。

障害をもっているお子さんと保護者の支援をするなかで、「命に優劣はない！みんな大切な命！生きていてだけでいい！」という確信を持ち、遺愛の後輩たちにそれをていねいに静かに語りかけていました。障害をもった子どもが生まれた時の親の苦悩、ネガティブな感情を、一人で抱え込まないで仲間と受けとめあうことの大切さ、辛い時、苦しい時にこそ神様の光が見えてくることを訥々と話していました。北川先生は、自分の失敗・良さを包み隠さず後輩たちに語り、失敗をおそれず、自分でできないときは人の手を借りることをためらわず、多くの人に支えてきてもらって今があることを率直に語っていました。

それらの言葉は、生徒たちの心のなかにしっかりと入り、人生の節目・節目できっと思い出し、支えてくれることになると確信しました。素晴らしい講演で、感動しました。



遺愛アリーナで3回の講演を
してくださいました。



左から2人目が北川聡子先生

右端が遺愛在学中の恩師の
出川悦子先生

2017年10月27日（金）